山内：議会のときも聞かれたんです。「なんで 40 日間で決定したんですか？」って。僕はＪＲＴとか、そういうの関係なく、（不明）「できるだけ短い期間でやりたい」と思って、僕も考えてないですよ。もちろんその時は、おっしゃる通り、組織の中の一員として、提案してるわけですから、最終的には当時の町長が、（不明）ということで決定してるわけですから。そういうふうにして、40 日間を決めたっていうことを・・・

野村：それが何で「黒幕だべ」「黒幕だべ」に繋がるんですか？

山内：えっ？

野村：「黒幕だべ」「黒幕だべ」と、僕がいかにもしつこく繰り返して言ってるような言い方になるんですか？

山内：こういうふうに言った、っていうことは、そういうふうに感じてたんだと。俺が言ったから訂正しただけあって、黙ってたら、訂正しなかったですよね。野村さん。「いや、ちょっと待って、僕、いま失礼なこと言ったから訂正します」って話じゃなかったですよね。さんざん、一番最初に、あそこの、しゃべって、座った瞬間に思ったのかもしれませんけど、座ったときに、そういうふうに喋って、いろいろ喋ってるうちに、俺が失礼なことをお互いに言い合ってて、あなたも失礼なことを言っているでしょ、っていう、その前提で、「黒幕って言ったでしょ？」って、もうだいぶ時間が経ってから言ったら、いやそれについては、じゃあ謝らせて、ま、最初・・・

野村：それは記憶ありますよ。記録にも残ってる。「そんなこと言いましたっけ？」て。僕も悪気がないわけですよ。悪気がない。そんなに悪い言葉は思っていなかったんですよ。なぜかというと、自分の判断じゃなくてね、ほかに誰かがいる、という意味でね、使ったに過ぎないんでね。あなたに言われて、別に、僕はね、否定もしないで「言いましたっけ？」と、自分で記憶がないわけですよ。「言ったんだとしたら、そうかもしれませんね」と、「その意図としてこうなんですよ」ということをね。

山内：（不明）

野村：いやね、その声のトーンをね、聞いて、今聞いてもわかるけどね、黒幕って言葉がね、そんなにね、悪い言葉と僕は思ってないよ。

山内：黒幕っていうのは、いいところで使いますか？

野村：ん？

山内：黒幕っていいところで使うんですか？

野村：それはね。黒幕とされた立場の人から見たらね、気持ちよくないですよ。

山内：だって僕らは、組織で動いているから。

野村：ええ。

山内：それは野村さんに言われた、「黒幕はあなたじゃない」と、自分は失礼なことを言ったから、あなたに失礼な（不明）

野村：そういう言い方ではない。あなたが判断して、僕はあくまでも貴方と話しているんでね、組織全体のことは、僕には分かり得ないわけですよ。

山内：だって（不明）

野村：あのね、あなたは組織の中でどういうルートでね、意思決定を行われるかというのはね、日常的に分かってる。でも僕は全くそれが分からないんですよ。分からない上でね, 、あなたと話をする・・・

山内：あれだけ残って、文書開示してですね、決裁文書を見たら、それぞれありますけども、一般的にその開示文書に（不明）のってったら、どんな決済、どんな風な（不明）分かんない？

野村：表面的にはわかりますよ。表面的には。でも実際そこでね、そこで誰がね、実際の決定権を持ってね、進めていったのか、というところまで読めないですよ。僕が言ってるのはね、普通ね、本当に、議事がね、本当に合議で決まるってことはなくてね、誰か１人がね、強くね、「これでいこう」と強く思って、それをみんながね、忖度してね、「じゃあ、それでいきましょう」ということで固まることの方がね、合議の場合は多いですよ。通常ね。ピラミッド型の組織の場合は。だから、それね、実際のね、意思決定のね、内部のに見えない部分ってのはね、外部の人には分からないんですよ。だからそれをね、それをね、分かった振りして喋るの危険でね、そんなの分かんないから。分かる目の前の人だけをね、対象としてね、「あなた以外の人がいるんでしょう」という言葉でね、僕は喋ってますよ。明確に記憶あるよ、だから

ね、悪気はないんだよ、あくまでも私が喋る、私が理解できるのは、あなたの言葉だけ。裏で何があろうがね、僕には分からないわけですよ。だから、黒幕という言葉を使ってる。その意図は明確にしてる。あなたが言ってる内容はね、「黒幕だ」「黒幕だべ」と。「黒幕がいるんだべ」「黒幕がいるんだべ」と。全く違う。

山内：だって、野村さんのな、インターネットで、今どういうふうになってるか、ぼく知りませんけど。あんま、見てないんだけど。インターネットに上げて、僕とか今の町長、名指しであげた、チセヌプリ（不明）明らかに不正って両方ね。何でしたっけ。談合か。（不明）疑惑っていうことで言ってらっしゃいますよね。

野村：背任。

山内：疑惑って書いてますけども、そういうのを・・・

野村：あのね、あのね、例えばね、ちょっとこれ、背任だけにフォーカスしましょうか。背任というのはね、本来５０００万で売れるものをね、不当に安く売ってしまったら、それで背任って成立するんですよ。

山内：じゃ成立させてください。どっかで。あなたの言ってる（’不明）どっかで成立させてください。

野村：ちょっと待ってください。いま大事なところだからね。それだけで背任は成立するんですよ。でもね、５０００万円をね、１０００万で売ることに対してね、何でそういうことをする必要があるかというのはね、別の理由が要るんですよ。別の理由が。

山内：（不明）

野村：違う。別の理由ってのは、普通の人が考えるのは、そうではない。その背任がね、本当だった場合はね、普通はね。そうではなくて。でもね、（不明）。普通は、別の理由があるんですよ。一般的な話、あなたがそうだといってない。一般的な話ではね、贈収賄なんですよ。一般的な。ただ僕は、贈収賄なんて一言も書いてないでしょ。証拠がないから。一言も。証拠があるのはね、間接証拠でね、立証が可能なのは背任なんですよ。だからね、「背任に対して疑惑」って言葉を書けるんですよ。ただ証拠がないものは、僕は書かないんですよ。

山内：（不明）

野村：ないです

野村：背任の証拠があるんでしょ？

野村：状況証拠はありますよ。

山内：背任を成立させたらいいじゃないですか。